

# 大私教青年部ニュース

2018年9月

NO. 41 (今年度 11)

発行: 青年部事務局

## 夏の一日学習会!

青年部企画全私研おみやげ教研から一夜明けた8月26日(日)、大阪私学助成をすすめる会主催の「夏の一日学習会」が行われました。この夏の一日学習会は私学助成の拡充を求める署名が9月からスタートすることを受け、毎年行われているものです。

大阪私学助成をすすめる会会長の大西さんのあいさつのは、桃山学院高校の橋本さんから大阪の私学助成制度についての基調報告がありました。現在の大阪の私学助成がどのような制度になっているのかを再確認するとともに、問題点についても共有し、署名を集める必要性について今一度考える機会になりました。その中でも、私は橋本先生の「病院は公立でも私立でも患者さんの負担額が同じなのに、学校では負担額が違うというのはおかしい」という言葉でした。今は、無償化制度が拡充されつつありますが、それでも所得制限などがあり、私立に通う生徒全員が無償で学校に行けているわけではありません。署名活動を通して、私たちの思いを国や大阪府に伝えていかななくてはならないと思いました。

基調報告の後には、四条畷学園高等学校の生徒さんによる、災害ボランティアの報告がありました。7月にあった豪雨災害の被害を受けた岡山県に顧問の先生とともにやってきた生徒さんの報告で、まだまだボランティアの手が足りないということ、なかなか家に帰ることができない避難者の事など、スライドを交えながら聴くことで、私たちも何か行動しなければならないと感じました。

記念講演は立命館大学特命教授の安齋育郎氏による「だます心 だまされる心」という講演でした。スプーン曲げやカードを当てるマジックなどを交えて、私たちがいかに思い込みによって日頃動かされているかを講演されました。普段私たちはニュースなどで報道されていることを真実だと思いきりで受け止めています。しかし、そこには政府や関係者の思惑などがあり、私たち市民はそれに踊らされているのだということを考える良いきっかけになりました。私は安齋氏の話の中で「『レッテル貼り』は文化的暴力である」という言葉に深く感銘を受けました。血液型診断など、おおまかに人をくくってレッテルを張ることで、個性を殺し、人を決めつけていることが私たちは日常的によくあります。しかし、それは人を安易に決めつけているだけで、相手のことを理解しているわけではありません。



もっとしっかりと個人のことを理解する必要があると感じました。軽い語り口調ではありますが、私たちがしっかりと考え、行動していかなければならないと感じた本当に良い講演でした。

そのあとは、高校生による高校生自主活動の報告がありました。愛知新歓フェスや近畿キックオフなど、大阪の高校生は日々自主活動の輪を広げています。しかし、このような活動は多くの方のカンパによって成り立っていて、今後も自主活動を続けていくために、皆さんに活動をもっと知ってほしいという内容を切実に訴えていました。



午後からは「私学助成クイズ大会」と「みんなで話そう、子どものこと、親のこと、先生のこと」という二つの分科会に分かれました。「私学助成クイズ大会」では、クイズを通して、日本が現在何にお金を使い、何にお金を使っていないのかということなど私学助成に関することを再度学びました。クイズの難易度がちょうどよかったので、大変盛り上がり、盛況のうちに終わることができました。「みんなで話そう、子どものこと、親のこと、先生のこと」では、少人数でありながらも、話は尽きず、自分の悩みを話すことができた保護者の方も多くおられたようです。



そのあとは、高校生大交流会と称して、二学期からの取り組みや各学校の行事についてどのように行っていきたいかを話し合いました。各学校の悩みやどのようなことが生徒会活動を妨げていて、どうすれば自分たちの要求を通すことができるかということのを他の学校の高校生からアドバイスをもらっていました。大阪の生徒自主活動は高校生と保護者、先生が同じ目線で学ぶことを大切にしています。そのため、この日も先生からも質問や考



えなどが話される場面も多くありました。このように、多くの高校生と繋がることによって自分の学校だけでは知ることができなかった問題点などを知ることができます。もっともっと多くの高校生と一緒に学んでいきたいと考えることができた高校生大交流会でした。

今年の夏の一日学習会はこのように大変充実した行事でした。来年もまた多くの参加者が来られることを願っています!

## 次回の青年部企画

まだ未定ですが、冬に冬の教研が行われ、その前にレク企画を現在構想中です!  
メーリス、ピラなどをお見逃しなく!